

平成 26 年度

第 1 期はままつ女性カレッジ レポート集
～ふみ出す わたしの“一歩”～

浜松市市民部

ユニバーサル社会・男女共同参画推進課

実施概要

1 目的

男女共同参画施策を含め、行政の施策を企画立案し提言できる力を身につけ、男女共同参画の視点をもって、審議会、地域の役員などの政策・方針決定の場で活躍できる女性の育成や支援を行う。

2 目標

与えられたテーマについて、政策提言を行う。

3 対象者

概ね 20～40 代の女性

4 実施期間

平成 26 年 10 月 11 日～平成 27 年 3 月 14 日（毎月 2 回、土曜日） 13:30～16:00

5 プログラム内容

（前半 5 回）

・男女共同参画に係る講義・グループワークを行い、知識を増やし、受講生の交流を図る。

（後半 7 回）

・テーマ毎に分かれ、男女共同参画の視点を持って、地域の現状と課題を分析し、政策提言を行う。

6 受講者の属性

		受講者	修了者
合 計		14 人	12 人
年 代	20 代	1 人	1 人
	30 代	6 人	5 人
	40 代	7 人	6 人
職 業	正規社員	5 人	4 人
	非正規社員	3 人	3 人
	専業主婦	4 人	3 人
	自営ほか	2 人	2 人

この表における修了者は、修了レポートを作成した受講生。

7 具体的政策提案（詳細は、次頁以降）

(1) Aグループ テーマ「ワーク・ライフ・バランス」

チラシ・パンフレットの制作、配布・・・ターゲット別チラシの作成

- ・働く若者(特に女性)向け
- ・子育て中のママ向け
- ・働き盛り向け

WEBの活用・・・専用のホームページの作成など

(2) Bグループ テーマ「学童保育」

指導員さんを応援する提案・・・指導員さんへの夏のギフトセット

- ・特に夏休みの過ごし方

外部講師招へいにより子どもたちの「やってみたい」を叶える。

- ・図書シャッフル

(3) Cグループ テーマ「子育て女性の孤立化」

夫婦の協力で子育て女性の孤立化を防ぐ・・・夫婦講座を増やす

- ・夫婦のコミュニケーションを増やす
- ・夫婦のあり方を夫婦で見直す
- ・サンキューカードでお互い感謝の気持ちを表す

(4) Dグループ テーマ「女性の視点からみた観光施策」

「はままつ女性観光プロモーションチーム」の発足

- ・情報発信をするためのプラットホームの構築
- ・カーベラ生産全国一を誇る浜松市

・・・カーベラをシンボルとして女性視点による観光政策を

ワーク・ライフ・バランス

丸山早紀、古田かおり、鈴木治代

政策提案

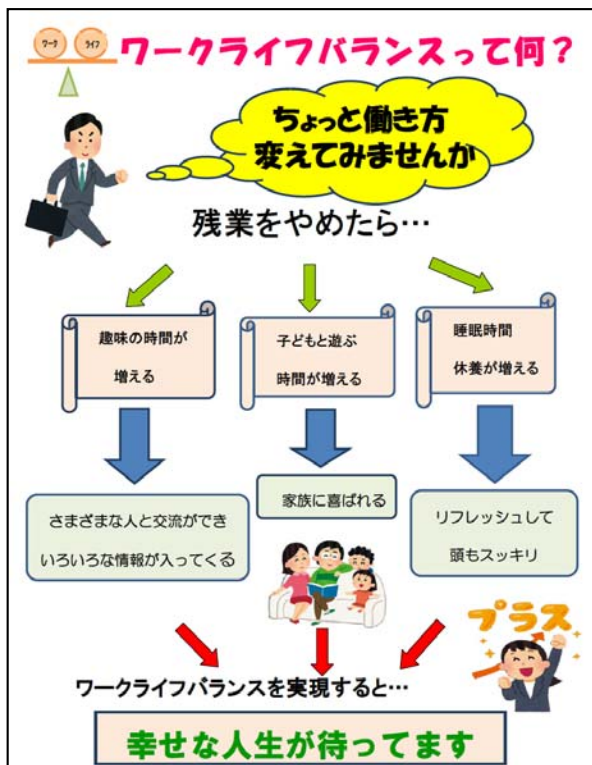
チラシ・ポスター・冊子等の作成では、包括的なワーク・ライフ・バランスに関する内容のものだけでなく、子育て中の男性・女性向け、専業主婦向け、学生向けなど、各ターゲットに絞ったものを作成し、あいホールや各公共施設、宣言企業、小児科・産婦人科、学校などに置いてもらう。また関連施設だけでなく、スーパー、コンビニなど一般の人の目にもとまるような場所に掲示してもらうのもよいのではないかと。

市民向けのワーク・ライフ・バランス周知方法の一つとして、自分たちにできることはないかと考え、私たちのグループは今回実際に市民向けのチラシを作成することにしました。チラシ作成としたのは、「今までワーク・ライフ・バランスについて全く知らなかった人に関心を持ってもらう」ためであり、紙媒体とWEBの両方で利用できるというメリットがある。

世代別に三つのチラシを作成したので、市役所のホームページや、あいホール（男女共同参画推進事業担当）のフェイスブックにこのチラシを掲載していただきたいと考える。そして、6月の男女共同参画週間にこのチラシを配り、PR活動をしたいと考えている。また、企業や家庭、公共施設等でも配布したい。

提案チラシ

会社などで働く人、働き盛り向け



提案チラシ

子育て中のママ向け



◆第一期はまつ女性カレッジ

この前連休取ったのっていつだったっけ

楽しみだして週末のライフもあ痛けどな(泣)

やっぱ評価は上げたいしキャリアも積みたい。

あれ、今日何時帰れど...?

けど残業代稼がないと生活が...

このままじゃ結婚どころか彼氏もできねえ...

気づけば私を立派な社畜...

※社畜(しゃちく)とは (Wikipediaより引用)
主に日本で、勤めている会社に勤められてしまい自分の意思と良心を無視し奴隷(言葉)を似ながらライバルの従軍を強要したものである。「会社+家畜」から来た造語で、「会社人間」や「企業戦士」などよりも、皮肉が強く込められている言葉である。

このままじゃいけない...!!

***ワークライフバランスって知ってる? ***

仕事(ワーク)と生活(ライフ)のバランスを取ることで、自分にも会社にもいいことがあります。まずは意識してみることから始めよう!

<p>自分にとって...</p> <ul style="list-style-type: none"> ■仕事とプライベートのバランスが取れ、心身の健康維持増進 ■余暇活動や自己啓発、地域活動への参加など、充実した生活を実現 ■仕事の効率・満足度アップ ■モチベーションアップ 	<p>ワーク</p>	<p>ライフ</p>	<p>会社にとって...</p> <ul style="list-style-type: none"> ■従業員の心身の健康保持増進 ■従業員の定着=離職率の低下 ■優秀な人材の確保 ■従業員の満足度や意欲の向上 ■創造性・視点の多様化 ■残業代など経営コストの削減 ■労働生産性・売上の向上 ■企業イメージや評価の向上
--	------------	------------	--

まとめ

今後、日本社会で起きてくるのは、高齢化社会・人口減などにより、時間制約を持つ人が増える社会である。今、ワーク・ライフ・バランスが必要な人はほんのひとにぎりかもしれないが、将来ほとんどの人が育児や介護で時間制約を持つようになる。ワーク・ライフ・バランスを実現することによって、社会全体が幸せになる。

一人ひとりが「ワーク・ライフ・バランス」を理解し、生き生きと働き、家庭や私生活でも充実した時間を持てば、その充実感が仕事に活かされていく。

【参考文献】

内閣府男女共同参画局 <http://wwwa.cao.go.jp/wlb/towa/index.html>

放課後児童会指導員の定着率アップの糸口

指導員さんを応援したい

指導員さんにエールを贈る夏休みのカリキュラムの提案

菊池由香 坂下典子 古田泉

政策提案

指導員さんを応援する提案の必要性

放課後児童会事業は人ありきの事業である。どんな人材を配置するかによって、ただの預かりの場にも、将来の浜松に貢献する人づくりの場にもなる。雇用形態からくる収入の不安から、モチベーションが上がらなくなっている指導員さんを応援し、自分たちが出来ることを再考し、隠れた能力をもっと発揮していただく手立てを提案したい。

そこで、メンバーそれぞれの経験から思いつく全体活動についてのギフトボックスを作成することにし、具体的な活動計画と活動へのキーワードヒントを提供することにした。今後は可能であれば、次世代育成課を通じ、各放課後児童会の主任指導員の例会で活動のヒントを披露したり実施に協力したりしたい。

指導員さんへの夏のギフトセット～企画・アイデアの詰め合わせ



新聞
ちぎり絵

図書
シャッフル

外部講師を
選んで招く

指導員も一緒に
まわし読み新聞

近い児童会
交流会

子どもと
ゲームをつくり
だす

地域の
小さな HAPPY
地図作り

指導員さんの
出来ること棚卸！
好きなこと講座

保護者に
ボランティアを
募集してみよう

まとめ 学童は、ただ共働きの親の子を預かる施設ではなく、世の中の様々な問題が絡んだ場所だと認識しています。子育て世代の賃金格差、大人のワーク・ライフ・バランス、不審者情報のメールを受信するたびに不安と不信が増し、地域の力が弱くなり、それがまわり回って子育て環境に影響します。また子どもの安全を親がすべてをコントロールしなければならず、子どもは行く場所を制限されてしまいます。

浜松市は広く多彩な市なので、都市の抱える問題はそうでない地域に学ぶ部分があるのではないかと、ミーティングを通して感じました。女性が社会に進出した事で得たこともそうでないこともしっかり意識し安心してバランスの良い世の中になっていくことを願っています。ありがとうございました。

【参考資料】

エドワード・デン『人を伸ばす力』

『第三次浜松市教育総合計画』 『パブリックコメント』 『ココ研 NEWS N07』

『放課後児童会育成会決算書』 『次世代育成課作成研修資料』

孤立化する子育てを夫婦でどう支えあうか

～夫婦のキズナは家族のキズナ～気づきの力は無限大～

杉本 実保 森下 純子 鈴木 薫

政策提案

私たちは、母親の孤立防止策として、育児期の家事や育児に対する夫婦の意識の差を埋めるために、母親と父親が自分の役割を見直す機会としての夫婦講座の開催を提案します。現在も夫婦講座は開催されていますが、調査してみたところ、ここ3年間の経緯をみても、子育てに対する意識が高い夫婦が存在し、講座を受けたいという需要に対し、講座の供給が不足している現状があります。講座回数を定期開催することにより、前回参加できなくても次の機会にまた学べる機会を作ることや、夫婦で子育てをしていこうという意識の浸透につながっていくと考えられます。つまり、啓発と実際の学びを通して夫婦で支えあうという習慣化につながると考えます。

私たちは、1回講座だけでなく、より参加者同士交流が深まるように、2回講座を提案します。1回目の前半は親子でベビーマッサージや身体遊びをし、後半は、ママとパパの意見交換の場とします。ゲーム感覚で楽しむワークなどを通し、互いの立場や気持ちを知ることによって、相手の気持ちを理解することができ、よりよい夫婦のコミュニケーションが生まれると考えます。

2回目は、『パパカフェ』を行います。子どもと一緒に遊ぶだけではなく、パパ同士の交流を通して子育てに参加してもらおうというものです。子どもが一緒の方が、パパも交流しやすいと考え、あえてパパと同じ部屋で過ごすようにします。ママは、別室にて、1人の時間を楽しみ、身体を動かす活動、ヨガなどはどうかと考えています。ママの時間を作る目的は、ママ自身が話を聞いてもらう相手や語り合える仲間をつくること。家事や慣れない育児に追われ、ほっとする時間がないママが開放される時間、身体を動かすことによって、ストレス解消を促し、明日も子育てを頑張ろうと思える活力を得るための時間として設定しました。

この他に、取り入れて頂きたい内容として、0歳～3歳までの子どもの成長は、個人差がありますので、0歳から1歳・1歳半～2歳・3歳対象と、年齢ごとにわけての講座を設置することも、両親ともに、交流の輪が広がると考えています。

講座の具体案

1 回 目	触れ合い・身 体あそび	ベビーマッサージ リズム遊び	役割分業意識 を変えるワー ク	互いの気持ちを表現でき るように、相手の事を尋ね る質問ゲーム
2 回 目	パパ自身が自 分を見つめ直 す場・情報交 換でパパカア ップ	『パパカフェ』子どもと 一緒に遊ぶだけではな く、パパ同士の交流を通 して子育てに参加して もらう	ママの息抜き の場づくり	ママは別室にて、1人の時 間を楽しむ。身体を動かす ヨガなど

まとめ

私たちが行ったアンケートの結果にも出ていましたが、妻が育児にあたって一番頼りにしている存在は夫です。そして、子どもにとっても「父」は社会的発達において重要な存在です。この幼少期の子育てを夫婦でいかに乗り越えていくかで、その後の夫婦のあり方に強く影響を与えていくと考えています。

家事を“やる”ことだけが「子育て」ではありません。本当に大事な事は、そばに寄り添って話を聞いてあげること、その「ねぎらう気持ち」が日々頑張る母親にとって幸せの時間となるのです。

ワーク・ライフ・バランスの見直しとともに、必要となるのが個々の意識改革です。家庭という最小単位の社会の変化ができて、地域や会社でも互いを尊重する意識につながっていくのではないのでしょうか。この機会に夫婦講座があるという事を、私たちも含め、子育て支援・検診時・自宅訪問時に啓発していきたいと考えています。

女性視点による観光施策

～『私』が行きたいところを発見する～

山中実千世/近藤佳美/道喜道恵

政策提案

「女性」視点により「観光」施策を検討するとはどういうことなのだろうか。「女性」というキーワードで考えると、観光業界において意識すべきことは以下2点であろう。

まず(1) 購買意思決定者としての女性。これは観光産業におけるターゲット顧客であり、浜松市がいかにか「女性から選ばれる観光地」となるかが課題になる。次に(2) 観光施策決定や実際に現場で活動する主体としての女性。例えば、観光業界や市民ボランティア活動のリーダー、審議会、委員会などのメンバーに女性がどれくらい関与しているのか、関与の度合いを把握したうえで、より一層の女性の活躍の機会を高めることが課題になる。

(1) ターゲット顧客としての「女性」

パゴ・アンダーヒルは、『彼女はなぜ「それ」を選ぶのか』（早川書房 2011年）において、女性のサービスに対する4つの要求ポイントを上げている。

清潔であること

調節できること

安全であること

思いやり

浜松が、女性から選ばれる観光地になるためには、これらのポイントを満たす必要がある。また女性は「不満や不便」を発見することが上手なので、不満や不便な点を見れば、「口コミ力」を発揮し、情報の拡散することが予想される。特に SNS (Twitter、LINE、facebook など) を活発に利用し、情報収集および情報拡散を行っている。そのため、4つのポイントを満たすとともに、これらの SNS を通じて情報を発信することが重要である。

提案：「はままつ女性観光プロモーションチーム」を発足し、情報発信するためのプラットフォームの構築を！

はままつガーベラ姫プロジェクト 浜松市を女性視点でプロモーション

コンセプト・ブランディング はままつ女性の象徴「ガーベラ」

- ・色彩の多様さ→個性、多様性
- ・茎が長く、スッと1本立ちしている姿が、自立した女性の姿を連想させる

今回、私たちが提案する「はままつ女性観光プロモーションチーム」においては、女性を意識した浜松の観光地の情報発信及び改善提案を行うことで、観光資源の発掘、観光地の底上げが可能であるとともに、市民目線を持った女性の観光リーダーを育成する場としても活用できると考えている。

ただ、そのためには活動の継続と、行政や企業の支援がどうしても必要となってくる。

単なるプロモーションだけでなく、人材育成を意識した場として考えた場合、活動初期から、観光関連の審議会やワーキンググループに参加できるようにし(傍聴でも良い)、既存の観光施策決定プロセスに関与する者が何を考え、どう判断しているのかを知り、知見を深めることで、意思決定の場に参加できる女性が育成できるのではないかと。

それには行政との協働や支援が欠かせない。浜松市が意思を持って女性を活用していかうと考えるのであれば、ぜひご一考いただきたい。

(2) 観光施策決定や実際に現場で活動する主体としての女性

調査をしてみたところ、行政、観光グループ、及び活動団体においても男性主体の組織となっており、意思決定の場に女性が参加できていない状態ではあることが分かった。

女性の意思決定者は、現在(公財)浜松観光コンベンションビューローの事務局長がいるが、市からの女性派遣職員であり、浜名湖観光圏ブランドワーキンググループにも参加しているが、市の職員であるため、人事異動がある。加えて、観光交流課のヒアリングからも浜松の観光で活躍している女性は、2~3名しか把握しておらず、観光業界での女性リーダー不足は他業界と同様に課題であることがわかった。

今後、他の地域でも「女性視点」を踏まえた観光施策を導入することは必至であり、顧客の取り合いとなることが予想される。そのため、浜松の観光資源にもっと多くの「女性視点」を取り入れ、魅力的な場所に磨き上げ、情報発信によって認知させ、体験してもらうことが、今後観光地として生き残る方法の1つであると言えよう。したがって、観光施策決定プロセスにおける女性の関与度を高めることは、非常に重要なことだと提言する。

まとめ

私たちは観光業界において(1)購買意思決定者としての女性、(2)観光施策決定や実際に現場で活動する主体としての女性という、2つの「女性視点」を考えてきた。

(1)「購買意思決定者としての女性」を意識した情報発信も重要ではあるが、(2)「観光施策決定や実際に現場で活躍する主体としての女性」、特に観光施策決定に女性が関与することが、女性に好まれ(=男性にも好まれる)リピートされる観光地づくりを目指すために欠かせないポイントであると考えている。

浜松市には、観光施策決定プロセスに女性が関与し、高い評価を得ている観光地がある。浜松フラワーパークである。理事長である塚本こなみさんは、浜松では数少ない女性の観光現場にあるリーダーである。彼女が理事に就任してから、「入園料を変動制に」

「古いトイレの改修」「車いす押す隊の結成」などの改革を推進してきた。また 1,300本の桜と 30 万球のチューリップを整え「日本一美しい桜とチューリップの庭園」と打ち出し、赤字続きだった園を復活させている。2014 年の浜名湖花博では、主催者目標を大きく上回る約 130 万人の来場となった。

フラワーパークの復活は、私たちが発表した「ターゲット顧客としての女性、4つの要求ポイント（清潔、調節、安全、思いやり）」を意識した改善が効いている。彼女はマーケティングやプロモーションの専門家ではない。自らが感じた自然な疑問から施策提案を行い、実行している。この事例から、女性が観光施策決定プロセスに関わることは、ターゲット顧客としての女性に対して、事前の期待を上回る体験を提供でき、それがリピーターを生むことができると実証できているのではないかと。

浜松では彼女に続くような観光施策プロセスの意思決定にいる女性は僅かである。他の地域でも観光女性プロモーションの目的の1つに「人材育成」があげられていることから、全国的に女性の観光施策決定プロセスに関わる人材が不足しており、全国的な課題であると推測される。

以上のことから、私たちは「はままつ女性プロモーションチーム」を発足させ、行政と協働しながら、「市民視点」「女性視点」を重視し、浜松の魅力を底上げしていくような情報発信や改善活動、施策提案を行っていききたい。その結果、私たちの活動が浜松の女性から支持され、次世代の女性リーダーが数多く輩出される「場」としても機能する、そんな未来を想像している。

「第1期はままつ女性カレッジ」のグループワークが、ガーベラのようにスクッと独り立ちし、花が咲くことを願い、アクションを起こしていこうと思う。

【参考資料】

静岡県、浜松市の基本的な観光施策や長期計画に関する資料についても、グループ内で検討していった。さまざまな気づきや問題点を理解することができた。

「ふじのくに観光躍進基本計画」静岡県、平成 26 年 3 月

「浜松市観光ビジョン報告書」浜松市、平成 19 年 3 月

「浜名湖観光圏整備計画 うみの真ん中に立ってみる～ゴールデンルートで触れて味わう日本の恵み～」浜松市・湖西市、平成 26 年 6 月 23 日

「お土産に関するアンケート調査」JTBWEB アンケート、JTB 広報室、2013 年 6 月

【参考サイト】<順不同>

浜松観光コンベンションビューロー <http://hamamatsu-daisuki.net/hamacon/>

浜松だいすきネット（公式観光情報）<http://hamamatsu-daisuki.net/>

浜松フィルムコミッション <http://www.hamamatsu-film.com/index4.html>

浜松情報 BOOK <http://www.hamamatsu-books.jp/>

家康くん公式サイト <http://ieyasu-kun.jp/>

浜松市シティプロモーション事業

<http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/miryoku/promotion/index.html>

観光圏の整備について（国土交通省官公庁）

<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kankochi/seibi.html>

浜名湖観光圏整備計画 <http://www.mlit.go.jp/common/001049629.pdf>

浜松市産業部観光交流課 平成 24 年度政策・事業シート（平成 23 年度評価）観光交流の振興

<http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/gyokei/24jigyohyouka/sheet/documents/shoko09.pdf>

観光こまち 秋田ロコミカ <http://www.akita-rokomika.jp/>

愛媛県宇和島市 うわじま女子旅プロジェクトチーム

<https://www.facebook.com/uwajimajyoshitabi>

南魚沼市女子力観光プロモーションチーム <http://joshi-ryoku.jp/>

浜名湖たびNET（遠鉄開発株式会社）

[http://www.hamanakotabi.net/perfectguide/index.html /](http://www.hamanakotabi.net/perfectguide/index.html/)

遠州・浜名湖魅力発信サイト（遠州信用金庫） <http://hamanakos.jp/>

TOWTOWMI.jp（(株) 55634） <http://www.towtowmi.jp/>

IN Hamamatsu（デザインルーム mocha-chai） <http://inhamamatsu.com/japanese/>

浜松 PC ガーベラウェブサイト <http://pcgerbera.jp/>

「長泉ママラッチ」長泉町タウンセールスプロジェクト <http://mamarazzi.jp/>

島根県松江市 松江市 21 世紀ウィメンズプロジェクト <http://matsue-wp.com/>

はままつガーベラ姫プロジェクト はままつ女性観光プロモーション

<http://hamamatsu-gerbera.jimdo.com/>

●カリキュラム一覧

日程	内容	講師
第1回 10/11(土)	開校式 オリエンテーション 「男女共同参画って何だろう?」【講義】 難しい言葉だけれども、あなたにとっても、社会にとっても、とっても大切。 男女共同参画について学びます。	静岡県立大学 国際関係学部 教授 犬塚協太
第2回 10/25(土)	いろいろな分野の男女共同参画 ① 「人権・DV・セクハラ」【講義】 紙面やTVでこの言葉を見たり聞いたりしない日はないくらい。男女共同参画とどう関係があるか学びます。 ② 「地域における女性の視点からの防災」【グループワーク】 いずれ来ると予想される大規模地震。地震だけでなくその他の災害に備えるために、なぜ女性の視点が必要なのか。グループワークを行いながら考えます。	NPO 法人浜松カウンセ リングセンター 内山春美 NPO 法人はままつ子育 てネットワークびっぴ 理事長 原田博子
第3回 11/8(土)	「女性のライフステージと就業」【講義・グループワーク】 女性を取り巻く労働環境や現状を理解し、課題や問題をグループワークを交えながら考えます。	一般財団法人女性労働協会 業務第二課課長 桂香代子
第4回 11/29(土)	「女性の政策決定過程への参画～なぜ女性の参画が必要なのか?～」 【講義】 “202030” このキーワードは何か。そのキーワードを交え、学びます。 「審議会委員になって」【経験談】 小さな子どもがいても大丈夫! 審議会委員を経験した女性の話を聴きます。 「勉強会①」 6回目以降のグループワークのためのテーマ(問題・課題)について勉強します。	静岡大学 人文社会科学部 教授 日詰一幸 審議会委員経験者 高橋里織 浜松市ユニバーサル社会・男 女共同参画推進課職員
第5回 12/6(土)	「浜松をもっと知ってみる」 ① 「データと浜松」【講義】 浜松の魅力から、浜松の現状・課題まで幅広く学びます。 ② 「市民協働ってなに?」【講義】 市民の力は市政にかかせない! 市民協働の重要性を学びます。 ③ 「勉強会②」 6回目以降のグループワークのためのテーマについて勉強します。	浜松市企画課職員 浜松市市民協働・地域政 策課職員 浜松市テーマ関連課職員
第6～12回 12/20、1/24 1/31、2/14 2/21、3/7 3/14 いずれも土曜	グループワーク 勉強会で説明のあったテーマから自分が研究したいテーマを選び、グループを決定します。その後、グループに分かれテーマ関連課職員やアドバイザーの意見を聴きながら、テーマの解決方法を見つけ出し、提案書の作成を行います。 最終回は大物が聴講に来るかも?	アドバイザー： 静岡大学 情報学部 教授 笹原恵 (第6～12回) テーマ関連課職員 (随時) テーマ関連課長 (第12回)

●各回の内容

日時	第1回 平成26年10月11日(土) 13:30~16:00 開校式・オリエンテーション 13:30~13:40 自己紹介 13:40~13:50 休憩 13:50~14:00 講義 14:00~16:00
受講者数	11名(欠席者3名)
講師	犬塚協太さん(静岡県立大学国際関係学部 教授)
内容	開講式・オリエンテーション ・今後のカレッジの内容について説明 自己紹介 ・1人3分程度、自己紹介 講義「男女共同参画って何だろう？」 ・男女共同参画社会とは ・性別役割分業社会とは、何が問題なのか ・男女共同参画社会の実現はなぜ緊急課題なのか ・男女共同参画を妨げるもの ・男女共同参画社会をめざして
成果	受講生は、男女共同参画を初めて勉強する人達ばかりだったため、男女共同参画の視点から社会を視るという、気づき得る機会になった。 講師は、短い時間で、男女共同参画の基本を話さなければならなかったため、最後は駆け足になってしまった。質問も多くてだが、全ての質問について時間の中で回答できないことが残念であった。



【受講者の声】

- ・ 相手よっての切り口(子育てや介護)が参考になった。ジェンダーや男女平等、男女共同参画など、“なんとなく”でしか分かっていなかった、ちょっとした“ちがい”を整理できた気がします。なんとなく経済と密接だと感じました。
- ・ 「男女共同参画」という言葉について初めて勉強しましたが、だいぶ理解できました。まだまだ自分も周囲もジェンダーにしばられていると感じました。女性だけの問題だけでなく“長時間労働をよし”とする労働環境を根本的に変えていく必要があると感じました。
- ・ 女性だけでなく、男性の意識改革も必要だと思いました。

日時	第2回 平成26年10月25日(土) 13:30~16:00 講義 13:30~14:30 休憩 グループワーク 14:35~16:00
受講者数	12名(欠席者2名)
講師	内山春美さん(NPO法人浜松カウンセリングセンター 理事) 原田博子さん(NPO法人はままつ子育てネットワークぴっぴ 理事長)
内容	講義「人権・DV・セクハラ」 ・マタニティハラスメントをめぐる状況 ・セクシャルハラスメントとは ・パワーハラスメントをめぐる状況 ・ドメスティックバイオレンス グループワーク「地域における女性の視点からの防災」 -仮定の条件下(冬場、M9、昼15 ・夜2、避難所1,000人、自宅から荷物の持ち出しができず、3日ぐらい物資がこない)で地震が起きた場合、避難所でどのような問題や課題が発生するか。また、どうすれば解決できるか、日頃からできることは何かをテーマにグループに分かれ、グループワークを行った。
成果	人権・DV・セクハラだけでなく、最近問題となっているマタハラについても講義で説明した。今回の講義で、「なんとなく知っている」から「よく知っている」にできたかと思う。 グループワークを通して、日ごろから防災に対する備えをしていくことが必要であると認識できたと思う。また、防災には女性の視点の必要性を認識できたかと思う。 ①②ともに言えることだが、講義もグループワークも限られた時間で行ったため、良い内容であったが、駆け足だったことが残念かと思う。



【受講者の声】

- ・新聞などで耳にするぐらいで、どういうことなのか分からない分野でしたので、講義を受けることができてよかったです。
- ・ニュース等で聞くことは多くても、きちんと知識を持っていなかったので知ることが出来てよかった。
- ・日ごろ、実感のない防災についてシミュレーションが足りないことがよく分かりました。最近台風、大雨対策が必要ですね。
- ・まだまだ男性中心の防災なので、私たち女性が自分たちの身を守るために、どのようにしたらよいか考えていきたいと思います。

日時	第3回 平成26年11月8日(土) 13:30~16:00
受講者数	12名(欠席者2名)
講師	桂 香代子さん(一般財団法人女性労働協会 業務第二課 課長)
内容	講義・グループワーク「女性のライフステージと就業」 ・働く女性の現状 ・女性活躍推進の波 ・企業の取り組み事例 ・ライフステージと就業 ・ワークショップ「女性である私たちが自分らしく働くために必要なことについて」
成果	働く女性の現状を取り巻く現状を学ぶことにより、働く女性をとりまく課題・問題を知ることができた。また、グループワークを行うことによってお互いを知ることができ、様々な視点から発言・発表ができた。



【受講者の声】

- ・女性が就業するにあたって色々な問題点がある。“孤独”から女性が活躍できる場が増えるといいと思う。女性が働くことで、企業も(男性も)学んでほしいと思いました。同時に、男性の気持ちも理解しなければいけないかなと思います。子育て+仕事がきついイメージを変えていかなければ、次の世代には続いていけないかなと思います。今日は色々な意見がでて、意識が変わったと思う。
- ・様々なデータからみても、日本は「性」による差別、刷り込みが多く、「個」でなく属性で判断されると思ったのは新鮮でした。桂先生はとても分かりやすく、詳しく説明いただき、とても勉強になった。このテーマを深く学びたいと思いました。浜松を魅力的にするには、本日でしていた数字を挙げることで、さらに人を集めることができるのではないか、と思った。
- ・女性が働くことについて、深く考える機会を持つことができとてもよかったです。さまざまなライフステージに合わせた働き方が、頑張らなくても実現できる社会になればいいなと思いました
- ・知っている情報も多々ありましたが、資料上ではなく、先生のお話しされる部分には、新しい発見がたくさんありました。現在の“女性の活躍推進”には、少し女性利用が見え隠れすることも多いし、“そうしなければいけないわけじゃない”と言っただけですっきりしました。
- ・独身・結婚、子どもあり・なし、どの選択肢もそれぞれあるが、自分の中でどうありたいかを明確に持っておかないと、いざその時が来た時に迷いが生まれると改めて感じましたし、子どもと話していきたいと思いました。

日時	第4回 平成26年11月8日(土) 13:30~16:00 講義 13:30~15:15 経験談 15:15~15:45 勉強会 15:45~16:00
受講者数	10名(欠席者4名)
講師	日詰 一幸さん(静岡大学人文社会科学部 教授) 高橋 里織さん(審議会委員経験者) ユニバーサル社会・男女共同参画推進課職員
内容	講義「女性の政策決定過程への参画～なぜ女性の参画が必要なのか～」 ・女性と政治参加の歴史 ・政策立案と女性の視点 ・男女平等と日本の現状 ・政策の基礎知識、政策過程 ・静岡県内の様々な分野で女性の占める割合 ・政策決定過程への女性の参画拡大に向けて大切なこと ・政策領域における地域的課題の発見→政策につなげる 経験談「審議会委員になって」 ・どうして審議会委員になってみようと思ったのか ・審議会委員としてどういったことをするのか ・審議会の雰囲気 ・審議会で自分が発言した意見がどのように反映されたか ・審議会の委員になってみての感想等 勉強会①「男女共同参画」 ・グループワークテーマ候補「WLB」「女性の活躍支援」「男性の共同参画」「DV・デートDV」についての学び
成果	女性の政策決定過程への参画の必要性を講義で学び、日頃から女性自身が政策に参画することの大切さを学ぶことができ、市政に関心をもってもらうことに繋がった。また、実際に審議会委員の話を聴いて、審議会委員に対しての心のハードルが下がったと思う。



【受講者の声】

- ・静岡の現状について調べてみたいと思った。行政の政策がつくられていく過程に興味を持ちました。
- ・日常と政治はやはりつながっていると思いました。政治に関心を持たない女性の行動も、またその現在を作り出しているんだなど。条例や計画は私にもなにかできる部分があるならやってみたい。

日時	第5回 平成26年12月6日(土) 13:30~16:00 講義 13:30~14:20 講義 14:20~15:10 勉強会 15:10~16:00
受講者数	12名(欠席者1名)
講師	川西 亜紀子さん(企画課職員) 井川 宜彦さん(市民協働・地域政策課職員) 北村 聡さん(次世代育成課職員) 加藤 智春さん(観光交流課職員)
内容	講義「データと浜松」 ・データから見る浜松の特徴・課題 ・浜松市新総合計画の内容・特徴 講義「市民協働ってなに？」 ・市民協働の定義、概念 ・市民協働を必要とする要因 ・市民協働を推進するための基本理念 ・協働のパターン、事例 勉強「子育て」「観光」 ・グループワークテーマ候補「子育て」「観光」についての学び
成果	今回は市政について知ってもらい、地域で活躍する人材に必要な市民協働について学んでもらった。日頃、近そうで遠い市政について知っていただけた。



- ・浜松の概要を理解することが出来た。様々な特徴のある浜松だが、その背景や理由についてもっと知りたかった。
- ・浜松市未来ビジョン「1ダースの未来」の言葉がよかった。こういう構想があるということも勉強になった。
- ・データが多く勉強になりました。提案を考えるうえでのプロセスがよかった。
- ・何も知らなかったので、話を聴いてNPOの存在が大きいことを知りました。

女性カレッジを受講して

※修了にあたって、受講生からカレッジについての感想をいただきました。一部を抜粋して掲載させていただきます。

半年間の受講を終えて、様々な講師の方や受講生の皆さんと交流できたことにより、女性の生き方についての価値観が広がったことが、一番の収穫であったと思う。

前半の講義では、専門の講師の方から毎回お話を聞くのが楽しみであり、各回のグループワークでは、他の受講生の方の意見が聞けたこともとても興味深かった。おそらくほとんどの受講生が出産・子育てを経験した（またはその最中の）方であったので、自分では想像もしていなかった意見があったり、興味を持つポイントが違ったりして、勉強になる点が多かった。

(S・Mさん)

今までほとんど聞いたこともなかった「男女共同参画」という言葉の意味を理解し、重要性を認識しました。また女性には結婚・出産というライフイベントが就業に大きな影響を与えるため、それに合わせて働き方を柔軟に選択していける社会づくりの重要性を感じました。

後半のグループワークでは自分たちで自主的に考え作り上げる、という貴重な経験をしました。最初は戸惑いもありましたが、メールでのやり取り、ミーティングを重ねる中で、メンバーとの間に信頼が生まれ、最終的にはとてもいい発表ができたと思っています。

(K・Fさん)

軽い気持ちで応募をしましたが、後半のグループワークはとても大変でした。

「パワポで発表」と言われた時はとても重たい気持ちになりましたが、丸山さん、古田さんに助けられ、何とかがんばれました！

この歳になって「一歩踏み出す」事はとても勇気のいることですが、本当にいろいろな事が学べてよかったですと思います。

年代も違う、職業も違う、多分性格も違う3人ですが、これからもつながっていたいと思いました。

グループワークが大変だった分、終わってからの達成感、充実感はすごくありました。受講して本当に良かったと思います。

(H・Sさん)

「私たちが政策提言をすることは、求められているんだろうか？」と日々感じながら、なんとなく寂しい気持ちを持ちながら、せっかく関わる事が出来たのだから、「最後まで頑張ろう」とそんな意識だけで走り続けた気がしています。

大変な政策提言でしたが、困難だったからこそメンバーと深くお互いのことを知る事が出来たのは宝だと思っていますし、地元浜松の人でなければわからない様々なこと、浜松の様々な組織とその繋がりを知る事が出来たのも、すごい経験になったなと思っています。参加して良かったです、ありがとうございました。（Y・Kさん）

今まで、専業主婦として家にいた私にとっては、「外に出る」いい機会と思いました。カレッジに参加していくうちに、女性がかんばっていることを知りました。

前半の講義を聞くなかで、今まで、気になっていた学童をテーマに選びました。学童の現状が、少しずつでも変わってくれたら、もっと女性が仕事をしやすく心が大きく持てるのではないかと思いました。

今の世の中、核家族が増え、孤立してしまい、妻が一番頼れるのは夫だと思います。
(N・Sさん)

今回の政策提言は、生活形態、生活リズムの違う3人での活動であり、時間を作り、場を設定してテーマについて考え、まとめるのに大変苦労しました。それでも、それぞれの得意分野を活かし、何とか最後のまとめまでたどりつけ、安堵しています。短期間にこれだけ話し合い、悩み進めてこられたことは、私たちにとってかけがいのない財産となり得たでしょう。

達成感の大きなこの女性カレッジに参加でき本当に良かったと今改めて思います。
(I・Fさん)

講座が終了した今、今後の自分の可能性を広げられたように思います。良き「つながり」も生まれました。自分に足りない部分も見えてきました。ただ、この足りない部分は、全てを改善しなくても良いということも確認できました。

仲間の大切さも、改めて感じることができました。

そして何より、この講座を通して、家族の大切さやありがたみがより強く感じられるようになりました。

一人の人間として、女性として、妻として、母として……。今の私には、いろいろな役割がありますが、日々自分に問いかけながら、一日一日を楽しく活動していきます。

(M・Sさん)

以前にもチャレンジ塾と言う形で、男女共同参画について学ぶ機会がありましたが、今回は有識者の先生方のお話もあり、以前よりさらに知識を深める事ができました。また、実際に自分達で子育て期の母親の実態について調査したり、話し合うことで、よりテーマに関しての裏付けが見えてきました。

NPO の様な団体による学童保育のような受け入れ態勢があり、多くの大人の目や手の中で子供が育っていけるような社会が実現するとういいなと感じています。

今回の参加で良かった点は、私が学んでいる事で夫が家事や育児をサポートしてくれる1面がみられました。役割が増えた時、自然と人は助け合いができるのかもしれない。

(J・Mさん)

“ふみだす 私の一步”まさに、その気持ちを持って受講しました。正直、皆さんのレベルの高さに圧倒されましたが……

身近なところからの男女共同参画を感じ、様々な分野での男女共同参画を学び、自分の住んでいる浜松市を知り、この学びを、これから活かすことができたら……という思いです。

行政の方との質問等、どこからどこまで聞いていいのか？しっかりお会いして、お話を伺いたかったことが後悔と反省です。

(K・Sさん)

今まで浜松市のことをこんなに一生懸命勉強し、考えたことはありませんでした。意識の高いステキな浜松女子と切磋琢磨し、全員で政策提言という大きな課題をやりきることができたことは、私の大きな一歩となりました。

(M・Yさん)

後半のグループワークでは、施策提案プロセスを体験できたことはもちろん、観光という未知の領域について、課題を導き、解決策を考え提案するプロセスを経験できたことは貴重な経験であった。

浜松には政策決定段階での女性の関与がさらに必要だと思っている。カレッジはそのための一つの手法として、女性リーダーを育成する活動を継続してほしい。カレッジから浜松をリードする女性が多く輩出されることを願うとともに、私自身も更に成長し、浜松を代表するロールモデルのひとつになれるように磨きをかけていきたい。

(Y・Kさん)

応募動機に「10年後、20年後の女性の姿やあり方にとても関心があるので、この講座を通じて考えたい」と書いています。修了してみて、10年、20年先ではなかったですが、「今」女性が抱える問題に対して、多面的に捉え、議論することができたと思います。

10年、20年後、自分の娘が「女性の活躍」とか「男女共同参画」とか「性別役割分業」といった言葉を使わなくても、「私」という個で伸び伸びと活躍できるような社会になってほしいです。そのために「女性の活躍」の波を利用して、今の私にできることを「観光」に特化することなく考えて、動いていきたいと思っています。

(M・Dさん)





第1期はままつ女性カレッジ ～ふみだす わたしの“一歩”～

あなたの思いを形に、市へ届けてみませんか？

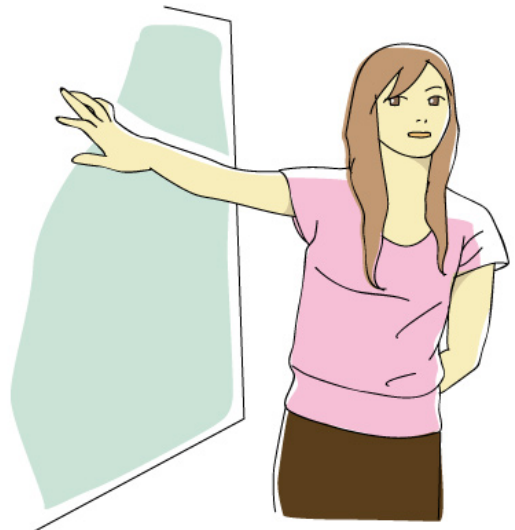
10/11(土)スタート

全12回 無料 託児付

申込受付9/16(火)～9/30(火)

仕事や子育て、家事などで毎日が終わってしまう。そんな毎日の繰り返し。これでいいのかなと思いつつも手一杯で何かをする余裕もない。だけど、いつもと違う社会とつながって、自分の経験してきたことや考えで社会に少しでも貢献できたら…。そんな思いがあなたの中にありませんか？

そんな思いをお持ちの“あなた”、勇気を振り絞って“一歩”前に踏みだしてみませんか？市ではそんな女性を応援するため、今年度より「はままつ女性カレッジ」を開講します！女性を取り巻く社会の問題・課題を勉強しながら、市が抱える身の回りの問題・課題を研究し、あなたの考えで解決の糸口となる提案をしてみませんか。



対 象

浜松市在住のおおむね20～40歳代女性
地域や職場のリーダー、地方公共団体の審議会・協議会等の委員として活躍したいと考えている方。
先着20名

受講料

無料

会 場

浜松市役所21・22会議室
(車でお越しの場合は、市役所の駐車場をご利用ください。)

託 児

あり
(無料、要予約、原則2歳以上就学前まで、2歳未満の場合は要相談) 9/30(火)締切。

期 間

平成26年10月～平成27年3月(全12回)
各回とも土曜日、13時30分～16時
月2回(詳細は裏面参照)
期間中に審議会を1回(平日)傍聴する予定です
(希望者のみ)。

申込方法

申込書に必要事項を記入し、9/16(火)から9/30(火)までに直接持参、郵送、FAX、メールにて、申込先へ提出。9/30(火)必着。

申込書は浜松市公式ホームページからもダウンロードできます。

申込・問い合わせ

浜松市ユニバーサル社会・男女共同参画推進課
〒430-8652 浜松市中区元城町103-2
TEL053-457-2561 FAX053-457-2750
E-mail jose@city.hamamatsu.shizuoka.jp

協力：女性就業支援全国展開事業(厚生労働省委託事業)